

授業科目名 (英文名)	会計史(経営学部・専門科目)(Accounting History)	科目区分 対象学生	
単位数	4.0	開講年次・ 学期	2年次・後期
担当教員	高須 教夫	所属	会計研究科
オフィス・場所		連絡先	
講義目的及び到達目標	本講義は、会計にかかわる事象を対象とする歴史研究である会計史を学ぶことにより、長期的な時間軸の中で会計行為を認識し、それを通じて現在の会計問題を考察するための視点についての理解を図ることを目的とする。そのことから、ここにおいては、会計行為を歴史的視野のもとに認識し、現在の会計問題を解明するための視点を獲得することを到達目標とする。		
講義内容・授業計画	<p>授業内容</p> <p>本講義は、会計行為を歴史的視野のもとに認識し、そのことから現在の会計問題を解明するための視点についての理解を図る。具体的には、授業計画に記載のとおりである。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 会計史を学ぶ意義 2～3. 「会計」の起源と複式簿記の誕生 4～5. フランスの簿記事情と会計規定の成立・展開 6～7. ドイツ式簿記とイタリア式簿記 8～9. ネーデルラント会計史の現代的意義 10～11. 15～19世紀イギリスの簿記事情 12～13. アメリカへの複式簿記の移入と簿記理論の体系化 14～15. 和式帳合と複式簿記の輸入 16～17. 株式会社会計の起源 18～19. 株式会社制度確立期の財務報告実務 20～21. 株式会社と管理会計の生成 22～23. 株式会社と会計専門職業 24～25. 政府・自治体と公会計 26～27. 会計理論の生成と展開 28～29. 現代会計の成立 30. まとめ <p>定期試験</p>		
テキスト	中野常男・清水泰洋編『近代会計史入門』〔第2版〕同文館出版。		
参考文献	千葉準一・中野常男編『会計と会計学の歴史』中央経済社(2012年)。		
成績評価の基準・方法	<p>成績評価の基準は、次のとおりである。</p> <p>S 90点以上 到達目標を十分に達成できている非常に優れた成績</p> <p>A 80点以上90点未満 到達目標を十分に達成できている優れた成績</p> <p>B 70点以上80点未満 到達目標を達成できている成績</p> <p>C 60点以上70点未満 到達目標を最低限達成できている成績</p> <p>成績評価の方法は、出席を前提に、原則として定期試験(100%)により評価する。</p>		
履修上の注意・履修要件	簿記論及び財務会計論を履修済みであることを前提とする。 テキストに基づいて予習をしておくこと。		
実践的教育	該当しない。		
備考			